

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「税のよりよい使い方」

府中市立府中第十中学校 3年 角谷 佳憐

私の家では一週間に 20 リットルの可燃ゴミの袋が三袋ほどゴミでいっぱいになる。そのゴミの中には、ティッシュや使わなくなったプリントなどの紙類はもちろん、買ったのはいいものの使わずにいつの間にか消費期限が切れてしまっていたり、無駄に多く買ってしまい余ってしまったりした食べ物、調理くずや残飯などの食品関連のものも多くある。また学校ではより多くの残飯が出ている。

私はこれらのゴミが一体どのようにして処理されているのかが気になり、インターネットで調べてみることにした。するとこれらはわたしたちの普段納めている税金で賄われていることを知った。

また、ゴミを処理するのにかかっている年間総額は日本全体でおよそ 1 兆 8500 億円だ。しかもそのうちの 40 パーセントの 8000 億円は食べ物に関するゴミの処理であった。

つまり、わたしたちは毎日食品を無駄にしているのと同時に税金も無駄に使っているということになる。

私は、このことを知ったとき、ふと思った。「この食品ロスを減らし、ゴミの処理に当てている税金を減らすことができれば他のところで税金をうまく活用することができるのではないか。」と。

公立の小学校、中学校で使っている教科書や実験道具、体育用具、私立学校では補助金という形で税金が使われ、火災や災害からわたしたちを守ってくれる消防署の救急活動、警察が行う犯罪の取り締まりなどの安全のため、生活に困っている人が多く住んでいる国を助けるためにダムや病院を作ったり、薬や注射器などを送る、「政府開発援助・ODA」の活動のために、さらにわたしたちの未来のための科学技術の研究のためなどで税金は使われており、日本だけでなく、世界の役にも立っているのだ。

もし、食品ロスを減らしゴミを処理するのに当てている税金を減らすことができれば、このような活動に税金を当てることができる。

税金の使われ方の現状を知った今、私は消費期限が近いものから食べたり、出された食べ物は、残さずに食べ少しでもゴミの量を減らそうと思った。

税金とはもともとみんながお互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくためにあるものだ。税金は払うものだと思いがちだが実は身近なところで使われ、わたしたちが今生きている社会を、そして未来をより豊かにしてくれる欠かせないものなのだ。

だから、私は私がよりよい使い方がされるよう工夫して生活していきたい。